

# 健康メモ

## 「病児保育室」をどう存じますか？

広島市医師会理事  
もり小児科院長 森 美喜夫

生まれたばかりの赤ちゃんはお母さんから免疫をもらって



ますが、半年経つと母由来の免疫は消失します。そのため乳幼児期にいろいろなタイプのカゼにかかります。いろいろなタイプのカゼにかかると免疫が蓄積し、小学生以降でカゼをひくことは稀になります。

免疫学的に乳幼児期にかゼにかかるとは当然のことですが、両親が共働きで保育園を利用している場合、

子どもがかゼなどの病気になるに困ります。親が仕事を休めたり、近くに祖父母がいてサポートを受けることができればよいのですが、そのような家庭ばかりではありません。小

児科医院で診療をしていると、遠く(岡山や福岡)からお祖母さんが孫の看病に来広されるお家もあることを知ります。また、「水痘みずとうです。一週間は保育園に行けません。」と言われ、職場を一週間も休めない。」と言われたり、子どもがしばしばカゼで発熱すると「仕事を辞めないといけなくなる。」と言われるお母さんがおられます。病児保育室は、病気の子どもを預かる施設で、保護者に代わって昼間に保育と看護をします。保育園を利用する保護者の多くが病児保育室の整備を望んでいます。厚生労働省は子育て支援として病児保育室の設置を進めていて、人口一〇万当たり一つの病児保育室をつくる予定です。

病気の子どもの預かりますので、部屋の種類や広さ、病児二人に看護師または保育士一名以上の配置などの国の詳細な基準があります。多くの病児保育室は小児科医院に併設されていますので、病気の悪化や急変にも対応可能です。現在、広島市では各区に一つの病児保育室がつくられています(東区は府中町の病児保育室に委託)。広島市以外でも福山市、呉市、東広島市、廿日市市などにも整備されています。

子どもが病気の時には、仕事を休んで看病ができる社会になるといいのですが、休めない職場や職業の方もおられます。企業も病児保育室の利用を推奨されたら、子育て支援の一つになると思います。病児保育室に限らず多様な子育ての支援体制ができていくことを望んでいます。